

## 【事例 4】 子育て広場の運営

実施年度	平成 14 年度～	連携・協働形態	委託												
事業内容	<p>乳幼児をもつ親の育児不安や孤独感を解消するため、親子が集い、ともに交流することができる「子育て広場」を設置した。つくば市は通勤族の多い土地柄、特にそのニーズは高く、安心して子育てできる環境づくりの一助とする。</p> <p>本事業の1件はNPO法人ままとーんに委託し、同法人事務所を主な実施場所としている。未就学児とその保護者を対象とし、子育てに関する相談・各種講習会の実施、絵本の読み聞かせや手遊びなど親子で楽しめる企画や季節に応じた野外活動なども盛り込んでいる。</p>														
連携・協働の範囲	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計 画</th> <th>実 施</th> <th>実施後の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>行政</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NPO</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				計 画	実 施	実施後の評価	行政				NPO			
	計 画	実 施	実施後の評価												
行政															
NPO															

### 〈行政〉

市町村名	つくば市	担当課	保健福祉部こども課	電話	029-836-1111
------	------	-----	-----------	----	--------------

連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:NPO)

同NPO法人は2001年より「つくばウェルカムパーティ」「つくばママフェスタ」など、母親の子育てネットワークづくり支援事業を行っており、2002～2003年は同事業に市から補助金を助成した経緯があった。

子育て広場事業に関しても2001年から公民館などを利用して自主的に行っており、その実績と必要性を認識していた。今般のNPO法人化に伴い、団体の活動環境も整ったことから委託による協働形態とした。

### 役割分担

NPO側：事業要項に従い、「子育て広場推進事業」を実施する。

行政側：事業のPR（開催日程等を広報で告知）や活動に対する助言・指導を行う。

### 連携・協働によるメリット等(事業成果)

行政側：同NPO法人の既存の活動・実績を、市の事業において有効に活用することができた。

NPO側：社会的信頼と活動資金が得られた。

利用者側：行政の子育て支援とは一味違うNPOならではの企画・サービスが享受できたものと考えられる。

以上、それぞれが互いに協働のメリットを共有できている。

### 連携・協働する上で配慮した点

本事業は、当時任意団体であった同NPO法人からアプローチされたものであるが、市の委託事業

とするうえで、団体の組織力と信用を確立させるためのNPO法人化を勧めた。

#### 課題と対応

他の子育て支援団体はNPO法人化されていないところが多く、今後、それら団体をどのように取り扱っていくか対応策を模索している。

#### 連携・協働の今後の展望

本事業を子育てネットワークの核とすべく、益々の進展を図る。

---

#### (協働相手のNPO)

団体名	特定非営利活動法人 ままとーん	電話	029-838-5080
住所	〒305-0062 つくば市赤塚641-1		

#### 連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:NPO)

ままとーんでは、母親たちの子育て仲間作り支援として、2001年より自主的に“茶飲み de ままとーん”と称する子育て広場を月1回ペースで開催し、地域の母親たちの支持を得ていた。2002年、NPO法人格を取得すると同時に、地元企業の全面協力を得て事務所を開設。それまでは会場の定期的な確保に苦慮していたが、事務所スペースを開放して開催することが可能になったのを期に、行政に働きかけた。

#### 連携・協働によるメリット等(事業成果)

- ・ 本事業の実施により、参加費の無料化が実現し、参加者がより利用しやすくなった。
- ・ 月1回開催から週2~3回に開催頻度が増したことによって、母親たちのニーズに合った企画プログラムを多く盛り込めるようになった。
- ・ 指導者として、子育てに関する知識をもつ地域の専門家を招くことが可能になった。
- ・ 資金面での安定感が得られ、活動事態も活性化し、団体の社会的信頼も得られやすくなった。

#### 連携・協働する上で配慮した点

もともと自主事業として行っていたが、開催頻度や内容など、行政から提示された事業実施要項に沿うように改善した。

#### 課題と対応

- ・ 本事業に関わるスタッフは、参加者と同じ立場である乳幼児を持つ母親が多く、それが特色の一つでもある。参加者が必要としている情報や悩みを分かち合えるスタッフに過度の負担をかけることなく、継続的に確保していくことでさらに運営をスムーズにしたい。
- ・ 予算執行時期までの経費が持ち出しになり、他の事業との調整が必要な場合もある。
- ・ 事業委託期間は3年間となっており、期間終了後の事業計画についても、引き続きつくば市・茨城県との協働を期待する。

#### 連携・協働の今後の展望

- ・ 当法人は、法人化に伴い、これまで組織の基盤整備を進めてきた。それと同時に、ノウハウの蓄

積，人脈の構築，スタッフの成長といったこれまで5年間の活動から，事業がよりスムーズに，より充実した内容で，実施できるようになってきている。今後はさらに，NPOの持つ「当事者と近い立場」を活かして，より市民のニーズに沿ったサービスを提供していくと同時に，市民自らが地域の子育て支援を考えたり，直接関わっていくきっかけづくりとなる対応を心がける。

- 子育て広場事業が孤独な子育てを解消し，地域の良さを発見したり，世代の違いを超えて子育てを支援する人々とつながっていけるような場にしていくために，行政の協力を期待している。
- 子育て支援については，今後，ますます行政とNPOの協働が必要となってくるとされる。NPO側でも自らのミッションや能力を考えつつ，前向きに取り組みたい。